

カリキュラム・マネジメントを活用した教育活動に関する 実践的研究 ～小学校における健康教育に着目して～

Practical study on educational activities utilizing curriculum management
～ Focusing on health education in elementary school ～

清 田 美 紀

本 多 壮太郎

Miki SEIDA

Sotaro HONDA

大学院保健体育領域

保健体育ユニット

(令和元年9月30日受付, 令和元年12月12日受理)

要 約

本研究では, 小学校において健康教育の推進に向けたカリキュラム・マネジメントを活用した取組の在り方について明らかにすることとした。作成した健康教育カリキュラムに基づき, 健康教育の核となる教科を横断的に単元構成し, 児童が自らの健康課題に気付き, その解決に向けた主体的な学びを促す授業展開を行うことで, 児童が獲得した知識を様々な学習場面で活用する姿が確認できた。KH Corder によるテキスト分析を行った結果, 「楽しい, 心, 体, 運動」といった「体ほぐしの運動」のねらいに関わる語句に加えて, 「健康」を意識する語句が確認できた。これらの実践を行うことで, 児童の日常生活における健康的な生活を実践しようとする意欲の向上が確認できた。このような結果より, 計画, 実践した内容及び展開がカリキュラム・マネジメントを活用した取組に有効であったことが示唆された。

キーワード: 小学校, カリキュラム・マネジメント, 健康教育, 体づくり運動, 総合的な学習の時間

I 緒言

平成29年3月に公示された学習指導要領¹⁾には, 改訂の基本方針の一つとして, 「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」が示された。「カリキュラム・マネジメント」とは, 各学校が掲げる教育目標の実現に向けて, 児童や地域の実態を踏まえ, 教育課程(カリキュラム)を編成・実施・評価し, 改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくことである。そのため, 学校経営の中核に位置付くものであり, そのための条件づくりや整備を行うことが必要となる。児童に学習の基盤となる資質・能力や現代課題に対応して求められる資質・能力を育成していくためには, 学校全体として児童生徒や学校, 地域の実態を適切に把握し, 教育内容や時間の配分, 必要な人的・物的体制の確保などを通して, 教育活動の質を向上させ, 学習の効果の最大化を

図る「カリキュラム・マネジメント」に努めることが求められている。

今後, 取り組むべき重要な方針として「カリキュラム・マネジメント」が示された後, 教育委員会等の機関が域内での取組の重要な方向性の一つにカリキュラム・マネジメントの推進を掲げたり, 学校単位でその趣旨を踏まえた授業実践を行ったりするなど, 取組が行われているところである。

浅野²⁾は, 「各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うことと明記されているが, これに関する議論や組織的な動きが活性化しているとはいいがたい」ことを指摘しており, 「各学校で子供たちが様々な教科や領域を越えて現代的な諸課題に即して学びを深めていくことの意義や価値をどう捉え, それを『育成を目指す資質・能力』としてどのように整理し, 学校の教育目標として具体化していくのかが問われている」

としている。

児童に、学習の基盤となる資質・能力や現代課題に対応して求められる資質・能力を育成していくために、カリキュラム・マネジメントの充実が求められているところであるが、現状では、理科、生活科といった一部の教科に関する研究が多く、特に、健康や体力といった課題に対応する研究実践例は少ない。

本研究ではこれらの現状を踏まえ、小学校において、体育科、総合的な学習の時間の授業を核に、教科等との関連を図り、児童が自らの健康課題に気づき、その解決に向けた主体的な学びを促すカリキュラムの開発とその実践から、カリキュラム・マネジメントを活用した健康教育の取組の在り方について明らかにすることとした。

Ⅱ 本研究に至る過程について

本研究を実施したK小学校は、昭和33年より60年間、継続して健康教育に取り組んでいる。K小学校は、平成24年度より「ヘルスプロモーション」の理念に着目し、これからの社会に求められる新しい健康教育の在り方として、家庭・地域とともに、児童自らが健康課題に気づき、解決する力の育成を目指して研究に取り組んでいる。健康教育でめざす児童像を「心身ともに健康に日々の生活を過ごし自己実現しようとする児童」と設定し、体育科、特別活動における食育の充実、教育課程全体を通じた体力向上の取組などを組織的に行ってきた。

平成29年度からは、「ヘルスプロモーション」の理念に基づく健康教育をさらに充実させるため、「カリキュラム・マネジメント」の視点に着目し、研究内容の修正を図った。これは、平成28年12月21日に中央教育審議会³⁾が取りまとめを行った答申の中に、「『カリキュラム・マネジメント』の3つの側面として、①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的観点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと、②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること、③教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含め、活用しながら効果的に組み合わせること」と示されていることを踏まえたものである。

まず、3つの側面のうち、①の趣旨を踏まえ、体

育科、総合的な学習の時間を核に、表1のような「健康教育カリキュラム」を学年ごとに作成した。

「健康教育カリキュラム」の作成に当たっては、体育科、総合的な学習の時間（第1学年及び第2学年は生活科）といった健康教育に関わりの深い教科を中心に据え、児童の学びの過程で関連があると考えられる単元と単元を線で結び、その関連を可視化するという作業を行った。また、内容がどのようにつながっているのか、児童の意識がどのようにつながり、学習がどのように進んでいくのかを職員全員で確認した。学習活動を想定し、児童の意識や思考の過程がどのように流れていくのか教員間で意見を出し合いながら作業を行った。作成したカリキュラムは、日々の取組に活かすこととし、改善点が見つかる、何をどのように改善するか記録に残すようにした。計画－実行－評価－改善を図る取組が日常的に行えるようにした。

また、「『カリキュラム・マネジメント』の3つの側面」の③の趣旨を踏まえ、「三位一体連携シート」を作成した。

「三位一体連携シート」は、学校・家庭・地域の三者が一体となって、児童を育てていくための拠り所となるものである。低学年、中学年、高学年、それぞれの時期の児童の心や体の特徴、学校で取り組んでいる主な健康教育の内容、家庭へのお願い、地域へのお願いなどを示している。このシートを家庭や地域に配布することで、学校での教育活動への理解を図るとともに、地域からも積極的に学校での教育活動に関わってもらうことを意図している。

これらのカリキュラムを活用した取組を行い、取組に対して定期的に評価－改善を図る機会を設けるようにした。

さらに、K校では、年間を通して体力向上を意図した取組を行っている。「らんらんランニング」や「パワーアップタイム」、「目の体操」や「すっきりタイム」など、健康づくり、体力向上の取組を通して、これらの取組がもつ健康な生活を送るための価値を見出し、意味ある取り組みとして、児童が継続して実践しやすくするための改善を図りながら取組を行っている。授業だけでなく、日々の活動とも関連をもたせながら、取組の充実を図っている。

Ⅲ 研究方法

1. 対象

K小学校第5学年A、B組の合計46名の児童

表1 健康教育カリキュラム（第5学年）

5年生 健康教育カリキュラム

めざす子供の姿

将来を見通しながら、自分の生活の課題に気づき、新しい知識を活用して改善策を考え、よりよく行動しようとする子供

		前期					後期														
教科	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3									
国語	国語	だいじょうぶ だいじょうぶ④ 図書館へ行こう④ 一つの言葉から④	動物の体と気候④ 文の組み立てに気を付けよう③ 意見と理由を聞き取ろう④	世界でいちばんやかいしい音④ 新聞記事を読み比べよう⑦ 漢字の由来に関心を持とう②	立場を決めて討論しよう⑨ 本は友達②	詩を味わおう③ 資料を生かして考えたことを書こう⑥ 古文を声に出して読みたいよう④ 敬語を適切に使おう②	注文の多い料理店④ 不思議な世界へ出かけよう③ 意味をそえる言葉に目を向けよう②	和の文化を受けつこう④ 熟語の構成を知ろう② 五・七・五で表そう③	手塚治虫④ 五・七・五で表そう③	古文に親しもう③ 伝えよう、委員会活動⑧	テレビとの付き合い方⑧ わたしの文章見本帳を作ろう③ 六年生におくる字をよせいせしもう④	大進いさんとがん⑧ わたしの文庫見本帳を作ろう③									
	社会	世界から見た日本④	さまざまな土地のくらし④	米作りのさかんな地域④	水産業のさかんな地域④	これらの食糧生産⑤	自動車のさかんな地域④	日本の工業の特色④	情報をつくり、伝えるのくらし④	情報社会を生きていくのくらし④	環境とわたしたちのくらし④	森林とわたしたちのくらし④	自然災害から人々を守る⑧								
家庭	家庭	わが家にズームイン！④	おいしい楽しい調理の力④	ひと針に心をこめて④	食へて元気！ご飯とみそ汁④	めざそう買物名人の物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④	物を生かして住みやすく④									
	体育	短距離走・リレー③	体力を高める運動⑤	マット運動⑤	表現 走り幅跳び⑤	水泳（クロール・平泳ぎ）⑤	ハードル走⑤	保健「けがの防止」④	球技運動⑤	ネット型ボール運動（キャッチソフトバレーボール）⑥	体力を高める運動（体力アップ持久走）④	ゴール型ボール運動（セーフティエリアパスケットボール）⑥	跳び箱運動⑥	フットボール運動⑥	ゴール型ボール運動（キックベースボール）⑥	ベースボール型ゲーム（キックベースボール）⑥					
特別活動	特別活動	5年生について考えよう 学年目標を決めよう 係を決めよう 当番・日直の仕事を考えよう	運動会への参加の仕方 を考えよう 学年目標の準備をしよう 健康ノートを見直そう	雨の日の過ごし方を考えよう プールの使用の仕方について考えよう 食事のマナーを見直そう	夏休みの過ごし方について話し合おう 本からの情報をもらおう 学年の問題を話し合おう 係・当番を決めよう	夏休みの思い出を交流しよう 前期のまとめの会をしよう 話し合おう 係・当番を決めよう	前期のまとめの会をしよう 話し合おう 係・当番を決めよう	交通安全について話し合おう 学習発表会を成功させよう 正しい姿勢について考えよう	交通安全について話し合おう 学習発表会を成功させよう 正しい姿勢について考えよう	ストロボの使用について話し合おう 持久走大会で自分の記録を作ろう 冬休みの過ごし方について話し合おう	風邪の予防と健康管理について話し合おう 楽家のバランスについて考えよう 友達の良いところを見つけよう 学年の問題を話し合おう	6年生を送る会の計画を立てよう 6年生を送る会の役割を決めよう 後期のまとめの会について話し合おう	6年生を送る会の計画を立てよう 6年生を送る会の役割を決めよう 後期のまとめの会について話し合おう	6年生を送る会の計画を立てよう 6年生を送る会の役割を決めよう 後期のまとめの会について話し合おう	6年生を送る会の計画を立てよう 6年生を送る会の役割を決めよう 後期のまとめの会について話し合おう	6年生を送る会の計画を立てよう 6年生を送る会の役割を決めよう 後期のまとめの会について話し合おう					
	学習の時間	総合的な学習の時間	「結成！コダニヘルスサポート隊」 給食、家庭での食事について調べ、「食」をもっと大切にする取組ができないか、みんなで方法を考えてみよう！					「ようこそ！コダニ食堂へ」 食について考えたことをもとに、みんなが元気になるための具体的な方法を考え、発信しよう！ 栽培した野菜を使って調理し、地域の方をおもてなししよう！					「コダニ・ヘルスサポート隊の活動報告をしよう！」 1年間を通して、学んできたことを振り返り、学校・家庭・地域を元気にするための活動について広く発信しよう！								
道徳	道徳	いつも全力で1-② 手品師1-④ 父の言葉2-②	オーストラリアで友人の命2-③ たこと2-④ どこかでだれかが見てくれる4-③ ケヤキの木の下の3-③	友の命2-③ ひさの星3-③ 見たえ答案1-④ ふみみ年3-②	ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ1-⑤ お父さんのおべんとう4-⑤	コースチャぼうやを救え3-① 心のレシーブ2-③ えがおが見たい4-② うばわたの自由1-③	稲むらの火で命を救え3-① 親から子へ、そして孫へ4-⑦ 「百ジャア」のふたご3-① まい きんさん、ざんざん1-①	心につたえる音楽をめぐして1-② 流行おくれ1-④ 遠足の子どもたち1-④	もう一人のお友達4-⑧ 世界じゅうの子どもたち4-④	正月料理4-④ くすね落ちたんだんボール箱2-② ありがとう上手に2-⑤	この水のために3-① キング牧師4-② わたしのボランティア体験4-④ 感動したこと、それがぼくの作品1-⑥	残った仕事4-③ バトンをつなげ4-⑥									
	教育活動	就任式・始業式・入学式 内科検診	春の親子遠足運動会 第1回早ね・早おき・朝ごはんカレンダー	避難訓練 新体力テスト	第1回ドッジボール大会 水泳記録会	宿泊体験活動 第2回早ね・早おき・朝ごはんカレンダー	避難訓練 陸上記録会	学習発表会 社会見学	第2回ドッジボール大会 親子マラソン大会	とんぼ 球技交流会（ミニバスケットボール） 第3回早ね早起き朝ごはんカレンダー	卒業式										
年間を通しての取組		いい歯の日					目体操					らんらんランニング					すっきりタイム				

を本研究のために実施した授業の対象者とし、体ほぐしの運動（全3時間）及び総合的な学習の時間（全16時間）を研究の対象とした。

2. 時期

令和元年5月から7月にかけて、授業内容の実践及びデータ収集を行った。授業は、K小学校に勤務する男性教員（教職経験7年目、研究主任）が担当した。

3. 授業について

1) 体育科「体ほぐしの運動」（全3時間）

表2は、体育科「体ほぐしの運動」全3時間の授業の流れと授業内容について示したものである。

第1時では、運動をすると心が軽くなったり、体の力を抜くとリラックスできたり、体の動かし

表2 体ほぐしの運動授業のながれ（全3時間）

体育科の取組	第5学年「体ほぐしの運動」 「コダニ・ヘルスサポート隊！心も体も元気に」
【第1時】 運動をすると心が軽くなったり、リラックスできたりするなど、心と体が関係し合っていること。	
【第2時】 運動を通して自他の心と体に違いがあることを理解し、仲間と豊かに関わり合う楽しさや大切さを体験すること。	
【第3時】 体を動かす楽しさを味わうことを通して、運動の大切さに気付いたり、仲間と豊かに関わり合う楽しさや大切さに気付いたりすること。これまでの学習を振り返る。	

方によって気持ちも異なることなど、「心と体が関係し合っていることに気付く」ことを主なねらいとし、ペアになってリラックスして体を前後左右に揺らしたり、ペアやグループで条件を変えて

歩いたり走ったりするなどの活動を行った。

第2時では、運動を通して自他の心と体に違いがあることを理解し、仲間のよさを認め合うとともに、仲間の心と体の状態に配慮しながら豊かに関わり合う楽しさや大切さを体験することを主なねらいとし、グループで列をつくり、リズムに乗って、前後に跳ねて移動をしたり、列の先頭児童の動きを真似て走ったりするなどの活動を行った。

第3時では、仲間とともに、体を動かす楽しさを味わうことを通して、運動の大切さに気付いたり、仲間と豊かに関わり合う楽しさや大切さに気付いたりすることを主なねらいとし、これまで行った運動の中から、選んだり、条件を変えて行ったりするなどの活動を行った。

毎時間の児童が学習を振り返る場面では、本時の学習に対する自己の心や体の状態と対話ができるよう、時間を十分に確保するようにした。

2) 総合的な学習の時間「コダニ・ヘルスサポート隊！心も体も元気に！」（全16時間）

表3は、体ほぐしの運動と同時期に実施した総合的な学習の時間の内容をまとめたものである。

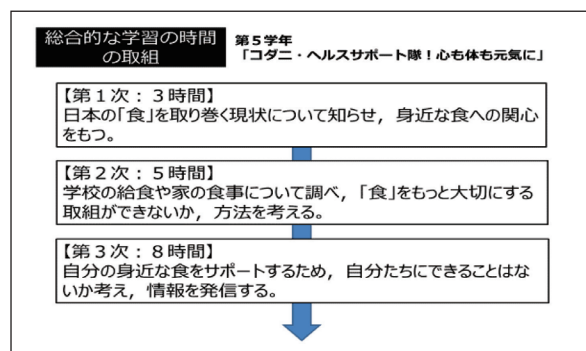
第5学年の総合的な学習の時間の授業では、身近な「食」から、「健康な生活を実践していくために自分たちにできることを考える」をテーマとした学習を行っている。

第1次から第2次では、小学校の児童にとって最も身近な「食」の機会である学校給食を取り上げ、給食の食べ残しに着目し、課題解決に向け、何ができそうか、考えを出し合うという活動を行った。第1次のまとめの場面では、「学校全体の残食率を減らすために何かできることはないだろうか」と授業者が問いかけたところ、「バランスよく食事をする事の大切さを全校のみんなに伝えたい」「みんなで体を動かすプロジェクトを立ち上げたらどうか」といった意見が児童から出された。

第3次では、これまでの学習の総まとめとして、「食」をサポートするために、自分たちにできることはないか考え、学校内や地域に情報を発信するというねらいで学習を行った。

授業者は意図的に、その教科のねらいに迫る問いかけだけでなく、習得した知識を想起させるような発問をしたり、学んだことを活用して、既存の知識を関連づけたり、新たな考えが生まれるような働きかけができるよう、子供たちの学びの連続性や意識のつながりを意図した学習展開とした。

表3 総合的な学習の時間授業のながれ（全16時間）



4. データ収集・分析

以下の方法によりデータを収集し分析を行った。

1) 体ほぐしの運動「本時の学習への取組意識」についての記述分析

対象者が、体ほぐしの運動の学習において、どのようなことを意識して活動していたのかを明らかにするため、毎時間授業後に、質問紙に「本時の授業の中で、感じたり、考えたりしたこと」を記述するように求めた。

収集した対象者の記述データは、テキストマイニングソフトウェアである KH Corder⁴⁾ により分析を行った。

分析を行う際に、対象者が記述した文章に表出する語が、同一のものとして認識されるように、記載にばらつきが見られる出現語句を統一する作業を行った。

その後、対象者の記述に含まれる単語の出現頻度を抽出するリストを作成するとともに、共起ネットワークを描画する機能を利用し、単語間の関連を明らかにする作業を行った。

2) 総合的な学習の時間「課題に対する解決方法」についての発言・記述分析

対象者が、総合的な学習の時間において、課題解決のための取組について話し合った際の発言内容や振り返りの発言内容について分析を行った。

3) 健康な生活を実践しようとする取組についての対象者の評価分析

K 小学校では、平成24年度から継続して健康な生活を実践しようとする取組について質問紙による調査を行っている。

質問紙調査から、①「運動への関心や意欲」に関する項目、②「健康な生活を実践していくこ

表4 「授業の中で、感じたり、考えたりしたこと上位10語 N:46

<第1時>		<第3時>	
楽しい	22	楽しい	24
心	22	体	24
体	21	運動	20
活動	9	心	18
運動	8	健康	10
気付く	8	活動	9
笑顔	7	思う	8
難しい	7	自然	6
合わせる	6	協力	6
自然	6	笑顔	6

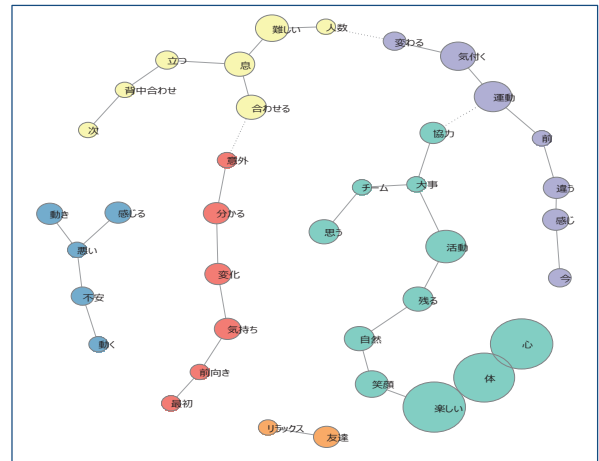


図1 体ほぐしの運動（第1時）「本時の学習への取組意識」の共起ネットワーク N:46

と」に関する項目の計2項目を取り上げ、対象者が自ら健康な生活を実践しようとする意識についての評価を行った。「自分から進んで朝のランニングに取り組んでいますか」といった質問に、「取り組んでいる」「取り組んでいない」の2件法での回答を求めた。

また、対象者の意識の経年変化を見るため、第1学年次である平成27年度、第3学年次である平成30年度の学年初めの4月と学年末の3月の調査結果、そして本年度は、4月と7月の意識の変化について、平均値の比較を行った。

Ⅲ. 結果

1. 体ほぐしの運動「本時の学習への取組意識」についての記述分析

対象者46名の記述内容について、KH Corder⁴⁾を用いて、前処理を行い、文章の単純集計を行った結果、分析対象ファイルに含まれる全語句の延べ数となる総抽出語数は2,216語、何種類の語が含まれているのかを示す異なり語数は409語であった。このうち、助詞や助動詞などを除外した分析に使用される語として209語、異なり語数102語が抽出された。これらの抽出語のうち、上位10語とその出現頻度を示したものが表4である。

第1時の学習後に「本時の学習の中で感じたり考えたりしたこと」に関して、対象者が記述した内容から抽出された語句は、「楽しい」、「心」、「体」、「活動」、「運動」、「気付く」などの語があげられていた。

第3時の学習後の記述内容は、「楽しい」「体」が最も多く出現しており、次いで、「運動」「心」

「健康」「活動」などがあげられていた。

第1時と第3時を比較してみると、「楽しい」「心」「体」「運動」については、両方の時間に共通して多く出現している語句であるが、第3時には新たに「健康」や「協力」という語句が出現していた。

また、語句の出現頻度と合わせて、語句の出現パターンが似通っており、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークを描いた「共起ネットワーク」により、文章中に出現する語と語がともに出現する関係を見る。

なお、分析に当たっては、出現数による語の取捨選択については、最小出現数を5に設定し、共起関係の絞り込みについては描画数を60に設定した。出現数の多い語ほど、大きい円で描かれており、共起関係が強いほど、太い線で描画されている。

第1時「本時の学習への取組意識」に関する結果が図1である。

第1時の「本時の学習への取組意識」では、6つのサブグラフが検出された。

まず、右下のまとまり（サブグラフ1）には、「楽しい、体、心」といった出現頻度の高い語句とともに、「笑顔、自然、残る、活動」といった語句が含まれている。これらの語句は、「心と体はつながっていて、楽しい活動をする自然に笑顔になった」「仲間と一緒に活動して、心と体が笑顔で元気になった」といった本時の学習に関わる情意面の振り返りや、自分の体への気付きに関して意識した文脈で用いられていた。

左上のまとまり（サブグラフ2）には、「合わせる」という出現頻度の上位の語句とともに、

「息」「難しい」といった語句が含まれている。これらの語句は、「相手と息を合わせて、体をゆらゆらさせると気持ちがよかった」「背中合わせから、相手と息を合わせて立つのが難しかった」などの運動をすると心や体がリラックスできたり、心や体の変化に気付いたりしたことを意識した文脈で用いられていた。

右上のまとまり（サブグラフ3）には、「運動、気付く、変わる、前」といった語句が含まれている。これらの語句は、「運動を行う前と後では、こんなに心や体の感じが変わること気付いた」「運動をすると体だけでなく、心も合わせて変化することに気付いた」と運動する前と後での心や体の変化への気付きといった文脈で用いられていた。

その他、左中のまとまり（サブグラフ4）、左下のまとまり（サブグラフ5）、下中央のまとまり（サブグラフ6）に関しても、「感じ、動き、変化、分かる」といった語句が見られ、運動を通して自他の心や体の違いがあることを理解し、運動を通してその変化を感じている文脈で用いられていた。

図2は、第3時「本時の学習への取組意識」に関する結果を表したものである。第3時では、7つのサブグラフが検出された。

まず、左上のまとまり（サブグラフ1）には、「楽しい、体、心、運動」といった出現頻度の高い語句とともに、「健康」といった語句が含まれている。また図から、この「健康」という語句は強い共起関係とは言えないが、サブグラフ3との関連が確認できる。第3時では、これまでの学習の中で行った活動から、グループでもっとやってみたいと思う活動を選んだり、条件を変えて活動を行ったりするなどの学習を行ったが、第1時の学習と同様、「運動」を中心に、「楽しい」「心」「体」といった項目がここでも抽出されている。ここでは、「運動をすると心も体も良い状態になると思いました」といった体ほぐしの運動のねらいに関わる項目を意識した文脈で用いられていた。「健康になるからこれからもやってみたいと思いました」「心も体もくたくたになったけど、楽しかった。運動をすると心も体も健康になると思う」と合わせて自己の「健康」を意識した文脈で用いられていた。

上中のまとまり（サブグラフ2）には、「変化、気持ち、分かる、友達」といった語句が含まれている。これらの語句は、「運動を行うと、心や体の感じが変化することが分かった」「友達と一緒に活動をすると体や心が変化することに気付きや

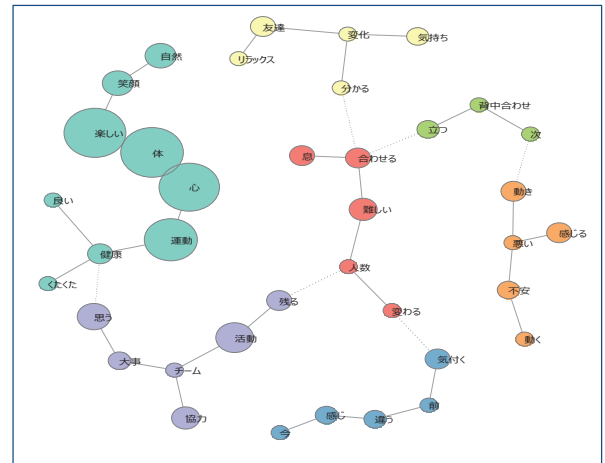


図2 体ほぐしの運動（第3時）「本時の学習への取組意識」の共起ネットワーク N: 46

すくなる」といった運動による心や体の変化への気付きや、仲間と豊かに関わり合うことの価値への気付きといった文脈で用いられていた。

左下のまとまり（サブグラフ3）では、「チーム、活動、大事、思う、協力」といった語句が含まれている。「チームで協力して活動することは難しいこともあったけど、協力して活動するのは大事です」「チームで協力して活動することが大事だと思いました」といった仲間と豊かに関わることの大切さに気付いたり、その価値を実感したりする文脈で用いられていた。

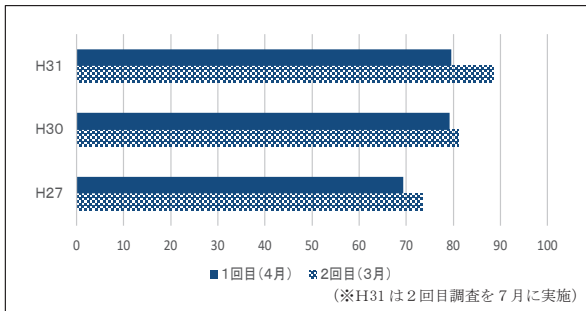
その他、サブグラフ4から7についても、抽出された語句や共起関係をみると、運動を通して、自他の心と体の違いにあることを理解したり、仲間と豊かに関わり合う楽しさや大切さを感じたりしている文脈で用いられていた。

さらに、毎時間の取組意識の記述に加えて、第3時の学習の総まとめの場面での授業者の問いかけに対する児童の発言内容を記録し、分析した。

「なぜこんなにみんなが笑顔いっぱい活動することができなのだろう」と、これまでの学習を想起させる問いかけを授業者が行ったところ、複数の児童から、「体をたくさん動かして心も体も元気になったから」「運動をすることで、みんなの楽しさが増してきたから」「運動は心も体も健康になるから、とても大事」といった内容の発言が児童から出された。

また、「これからもっと健康に過ごしていけるようにするために、運動以外に何かないかな?」と健康的な生活を実践するための方法を問う発問を授業者が行ったところ、「早寝・早起き」「朝ごはん」に加え、複数の児童から、「食事が大事」、

表5 「自分から進んでランニングを行っている」と回答した割合 N:46



「食べ残しをせずに、しっかり食べることが大事」といった意見が出された。

2. 総合的な学習の時間「課題に対する解決方法」についての発言・記述分析

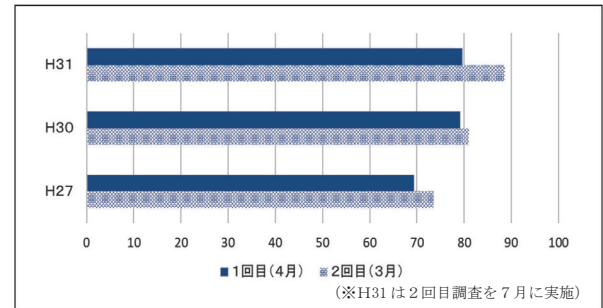
対象者が、総合的な学習の時間において設定した課題に対して、解決するための取組について話し合った際の発言内容や、学習を振り返る際の発言内容について分析を行った。

第1次の学習のまとめの場面では、授業者が身近な食について、どのような課題があるのか、課題に対してどのような解決方法があるのかを問いかけたところ、対象者から出された主な発言内容として、「給食の残食率がとても多いので、日々の給食後の様子を調査して、残食率を減らす活動をしたい」「自分の毎日の食事の内容を振り返ってみると、あまり考えずに残すことがあった。自分の毎日の食事について、意識してみていきたい」などの意見が出された。

第2次の学習のまとめの場面では、授業者が、「食べ残しを減らす方法としてどのようなことが考えられるか」と発問したところ、対象者の主な発言内容として、「給食の時間のことで考えると、給食の時間をもうすこし十分に確保できるようにすれば、余裕をもって食事をすることができると思う」「たくさん体を動かして、お腹がすいて、たくさん食べることができるようにするとよいと思う」とあった。

第3次では、「身近な食をサポートするため、自分たちにできることは何か」という課題に対して、多くの対象者から、「バランスよく食事することの大切さを全校のみんなに知らせたい」「みんなで体を動かすプロジェクトを立ち上げてみてはどうか。お家の人や地域の人に、みんなで考えたことを伝える活動をしたい」という意見が出された。

表6 「学習したことを健康づくりに生かしている」と回答した割合 N:46



3. 健康な生活を実践しようとする取組についての対象者の評価分析

表5及び表6は、健康な生活を実践しようとする取組について、対象者が入学した平成27年度、第4学年時の平成30年度、そして本年度の3年間の評価結果について、平均値を比較したものである。

表は、「自分から進んでランニングを行っている」と回答した平均値を示したものである。

対象者がK小学校に入学した平成27年度の平均値は、4月当初42.9%であったのが、平成30年度4月当初は53.8%、本年度4月当初は73.9%と、高い評価結果を示した。また、本年度、本研究を行う前に当たる4月当初は73.9%であったのが、7月に2回目の調査を実施したところ、91.3%と17.4%の伸びが見られた。

次に、表6は、「学習したことを健康づくりに生かしている」と対象者が回答した平均値を示したものである。

平成27年度の平均値は、4月当初69.4%であったのが、平成30年度4月当初は79.2%、本年度4月当初は88.6%と、この項目においても高い評価結果を示した。本年度の結果を比較したところ、4月当初は79.6%であったのが、7月に2回目の調査を実施したところ、88.6%と9.0%の伸びが見られた。

これにより、健康な生活を実践しようとする取組についての意識はいずれも高い評価を示しており、学習内容の中から、自己の健康課題として捉え、取組へとつなげていこうとする意識の変容が表れていると捉える。

IV. 考察

体ほぐしの運動の授業において、意識したことに関して記述した内容を分析した結果、「楽しい、心、体、運動」といった語句が出現数の上位を占めていた。これは、体ほぐしの運動のねらいにあ

る「心や体の変化への気付き」「仲間との豊かな関わり合い」に関わる語句と一致している。このことから、体ほぐしの運動のねらいを児童が意識し、学習が展開されていると言える。

第1時と第3時の出現語句を比較すると、第3時に新たな語句として、「健康」という語句が出現した。また、図2から、この「健康」という語句は、サブグラフ3との共起関連が確認できる。「健康」という語句を拠点とし、「運動」「思う」「大事」といった語句との関連が見られることから、体ほぐしの運動の授業と関連させて行った総合的な学習の時間の授業の中で、「食」を切り口に自己の健康な生活を実践する取組について学習を行っていることとの関わりがあるものと考ええる。この学習の過程で、児童の課題解決の方法に関する考えや、学習の振り返りの中で「健康」という語句がキーワードとなっていたことから、体育科、総合的な学習の時間、2つの教科での学びを関連づけ、習得した知識を活用しながら、課題解決を行ったり、学習の振り返りを行ったりしていたものと考えられる。

健康な生活を実践しようとする取組については、学年が進むにつれ、「自分から進んでランニングを行っている」「学習したことを健康づくりに生かしている」と肯定的に回答する対象者の割合が増加している。中でも、「自分から進んでランニングを行っている」という項目に関して、K小学校の40代男性教諭によると、「今年度、朝のランニング開始前5分には、多くの児童がグラウンドに出て、体を動かす姿が見られる。児童の取組への意識が変わってきていることを実感している。」と、児童の取組への意欲の向上を実感している発言も聞かれた。日々の取組への変容が見取れることから、取り組んできた内容が、対象者に有効に機能したのと考えられる。

V. まとめ

本研究では、健康教育カリキュラムを活用し、体育科、総合的な学習の時間の授業といった健康教育の推進に関連の深い教科を横断的に単元構成し、児童が自らの健康課題に気付き、その解決に向けた主体的な学びを促す授業を計画、実践していくことの有効性について、明らかにすることを目的とした。

体育科「体ほぐしの運動」においては、自己の心や体の変化に気付くことや、仲間との心や体の状態に配慮しながら、豊かに関わり合う楽しさや大切さを経験できるようにするといったねらいを、総

合的な学習の時間の授業では、自分の身近にある「食」について考えるという学習から、児童が自ら健康課題を見付け、その課題解決に向けた取組が行えるようにするというねらいの達成に向け、教科の関連を図った指導を行うことで、児童の意識の流れがつながり、学びの連続性が創出できた。

対象者46名が、体ほぐしの運動の学習において、どのようなことを意識して取り組んだか、テキストマイニングソフトウェアであるKH Corderを用いて分析した結果、対象者が記述した語の強い共起関係が、「楽しい、心、体、運動」の4語に認められた。体ほぐしの運動のねらいである、手軽な運動を行うことを通して、体を動かす楽しさを味わい、「心や体への気付き」「仲間との豊かな関わり合い」ができるようにすることを意識した文脈で用いられていることが示された。さらに学習が進むと、「健康」が共起ネットワークを結ぶ語句として現れており、自己の「健康」を意識した文脈で用いられていた。総合的な学習の時間に、「食」をテーマとして、自己の健康課題について考える学習を行っていたことから、自己の心や体の健康を意識した文脈で用いられていることがうかがえた。

このような結果から、本研究において計画、実践した内容及び展開が、カリキュラム・マネジメントを活用した健康教育の推進に有効に機能したことが示唆された。

今後の課題として、健康教育に関わるカリキュラム・マネジメントの充実に向けては、他にも様々な単元構成が考えられる。編成－評価－改善のサイクルの計画的な推進を図り、さらなる充実に向けた単元構成の工夫や評価－改善を図る取組の考察を様々な実践を通して行っていく必要性が、明らかとなった。

参考文献

- 1) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領(平成29年告示)、東洋館出版社。
- 2) 浅野信彦(2018) 総合的な学習の時間を核とするカリキュラム・マネジメントに関する事例研究、文教大学教育研究所紀要、27: 65-76。
- 3) 中央教育審議会(2016) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)。
- 4) 末吉美喜(2019) テキストマイニング入門－ExcelとKHCoderでわかるデータ分析、オーム社。